

近畿印刷産業機材協同組合 2013年 新年互礼会

近視眼的考えから脱却へ

1月29日、ホテルグランヴィア大阪 組合員らおよそ90名が出席

加貫理事長の藍綬褒章受章を祝福



近畿印刷産業機材協同組合は1月29日、JR大阪駅に直結したホテルグランヴィア大阪において、講演会ならびに昨年秋に藍綬褒章の栄に浴した加貫順三理事長の受章祝賀会を兼ねた新年互礼会を開催した。

この日は、午後5時から臨時総会、続いて新春講演会、祝賀会（互礼会）の3部構成で行われ、臨時総会では、理事の富士フィルムグ



講師の若菜氏

ローバルグラフィックシステムズ(株)取締役常務執行役員、磯村和孝氏の東京転勤に伴い、後任理事に同社執行役員大阪支社長の藤嶋克則氏の就任が承認された。

続く講演会は、毎日新聞社大阪本社の若菜英晴編集局長を講師に迎え「どうなる2013年、関西が日本を動かすか」をテーマに、昨年の総選挙後の経済動向および今後の予測とポイントなどについて講演が行われた。

約1時間半の講演で若菜講師は、総選挙を振り返った後、政界に一石を投じた日本維新の会の活動状況にふれ、会としての方針、ブレーンの活用などが今ひとつ不明確な点を指摘したうえで、大阪都構想の今後、本年7月の参議院選挙の行方、「ここに維新の会がどう関わりをもっていくか。原発の再稼働問題、消費税率アップ、TPPへの決断など、重要課題が山積している安倍政権と維新の会の接

触はそれらを睨んだものになる」と予測に解説を加えた。

また、経済見通しについて、とくに関西は、リチウムイオンや太陽電池、先端衣料品、医薬品などの強みを紹介したうえで、関西イノベーション国際戦略総合特区、関西空港のLCC、うめきたなどの都市再開発他、幾つかの明るい材料を示して参考に供した。

この後会場を別室に移して祝賀会（互礼会）が催された。



お祝いを受け取る加貫氏

山中伸弥教授が発表したiPS研究のようなイノベーションは若い人に有利だといわれるが



「課題解決型のイノベーションでは、過去の経験をもとに改善に取り組んでいく歴史ある企業が有利」という経済評論家で東京大学の伊藤元重教授の言葉を引用し、「我々印刷業界も課題解決型イノベーションを必要としている」としたうえで、デジタルボイスレコーダーが、テレビショッピングでは「ビジネスの他、家庭での様々な用途がある」と紹介していることに対して「ビジネスの道具」と近視眼的な認識で潜在市場を見落としているメーカーや販売店の事例を紹介。「自社商品の特徴を考え、何を売ろうとしているのか、繰り返し自問することが思い込みを克服する知恵であり、課題解決型イノベーションを生み出す源」と、近視眼的考えからの脱却の必要性を述べた。

この後出席者一同、新春を寿ぎ、受章祝賀会に移行し、2重の慶びを分かち合いながら和やかに歓談のひと時を過ぎた。